

核都市広域幹線道路（埼玉新都心線～東北道付近）

第 2 回ワークショップの議論のまとめ

1. 核都市広域幹線道路（埼玉新都心線～東北道付近）の必要性や求める機能

■ 渋滞

- ・ 本道路の整備に併せて、周辺道路や側道の整備を行うことにより、生活道路への侵入車両の減少や周辺道路の渋滞緩和、地域の利便性向上を期待する。
- ・ 本道路の整備により、さいたま市内（東西方向）や市外へのアクセス性向上を期待する。
- ・ 外環道などの周辺道路の渋滞緩和のため、東北道以東の延伸（東埼玉道路など）を念頭に置いた道路整備をしてほしい。
- ・ 本道路の整備について、事故や渋滞の原因とならないような車線数・線形としてほしい。
- ・ 本道路の整備により、物流拠点の増加や、それに伴う周辺道路の渋滞が懸念されるため、対策も併せて検討してほしい。
- ・ 生活道路の渋滞が本道路の整備によって解消するのか、因果関係が不明確なため、データ検証を行ってほしい。
- ・ 東北道の岩槻・浦和 IC 間の接続部について、それぞれの IC 間と距離が近いこと、接続部や接続部周辺道路での渋滞が懸念される。
- ・ 本道路を有料道路として整備してしまうと、国道 463 号の新見沼大橋有料道路を避けて抜け道利用している車両の削減や周辺道路の渋滞緩和には繋がらないのではないかと懸念している。
- ・ 本道路が自動車専用道路のみで整備される場合、渋滞緩和は期待できないのではないかと懸念している。

■ 事故

- ・ 地域内を通過していた物流などの交通が本道路を利用することによって、交通事故が減少することを期待する。
- ・ 本道路の整備後、大型トラックなどの生活道路への流入が減少することで、事故の減少や安全性の向上に繋がることを期待する。
- ・ 本道路の整備に併せて周辺道路も整備することで、事故等の危険性の低減が期待される。
- ・ 本道路の整備後、地元住民の裏道利用の増加など、地域内の交通量が増加することで、通勤・通学時間帯の安全性が低下することが懸念される。
- ・ 東北道の岩槻・浦和 IC 間の接続部について、それぞれの IC 間と距離が近いこと、接続部や接続部周辺道路での交通事故の増加が懸念される。

■ 企業進出・人口増加

- ・ 本道路の整備に伴う、東西方向のアクセス性の向上による物流拠点の増加、土地利用（農地）の見直し、IC に併設する施設の開発が進むことで、地域活性化や人口増加が期待できる。
- ・ 本道路が広域道路網の拠点となることで、さらなる地域の発展・活性化を期待する。

■ 生活環境（住みやすい街づくり・生活の課題）

- ・ 本道路の整備に併せて、側道や周辺道路の整備をすることにより、生活道路の渋滞緩和や安全性・利便性の向上など、地域にメリットのある道路整備を期待する。
- ・ 本道路の整備に併せて、病院・学校の誘致や公共交通の充実など、地域に合わせた住環境の向上にも期待する。
- ・ 大型トラックの生活道路への流入が減少し、騒音の低下に繋がることを期待する。
- ・ 本道路の整備後、交通量の増加に伴う騒音や大気汚染の発生、物流施設等の建設による居住環境や周辺の自然環境の悪化が懸念される。

■ 災害

- ・ 本道路が、さいたま市中心部の防災拠点と連携し、多車線の災害時緊急輸送道路として、輸送時間の短縮や緊急車両の走行性向上など、広域的な防災・災害時対応の向上に寄与することを期待する。
- ・ 本道路の整備に併せて、首都圏外郭放水路（春日部市）のような放水路を整備することで、浸水など災害時の被害軽減が期待できる。

■ 医療

- ・ 本道路や周辺道路の整備を併せて行うことにより、順天堂大学病院（建設予定）や埼玉県立小児医療センター、さいたま赤十字病院などへの救急搬送時間の短縮やアクセス性向上が期待できる。

■ 観光

- ・ 本道路の整備により、市街地と見沼田圃とのアクセス性が向上し、さいたま市の魅力向上も期待できる。
- ・ 本道路の整備に併せて、見沼田圃で既に行っているイベントの活用や、桜並木などの地域資源の活用、公園・道の駅・PAなどの施設整備により、観光客の増加や新たな雇用の創出などの地域活性化を期待したい。
- ・ 本道路の整備に併せて、見沼田圃を開発した際には、観光客が増えた場合の渋滞や通過交通への対策、駐車場などの整備が必要ではないか。
- ・ 観光推進や企業進出による、見沼田圃の風景や環境の悪化が懸念される。

■ その他

○計画検討の進め方への意見

- ・ 本道路の整備の具体的なスケジュールや、道路構造、環境アセスメントの結果などを開示してほしい。また、周辺地域住民や見沼田圃の関係者への丁寧な意見聴取を行ってほしい。
- ・ 本道路の早期実現を願っているが、計画の位置付け・構造案等の情報を住民に丁寧に示し、住民の意見や地域の活性化といった要望を反映してほしい。
- ・ 意見聴取について、地域住民や若い世代の参加を促してほしい。また、本道路の進捗状況を定期的に地域住民に提供するなど、興味・関心をもってもらえるような工夫をしてほしい。
- ・ 用途地域の変更など、都市計画との整合を図り、本道路の計画を進めてほしい。
- ・ 第3回ワークショップでは、議論しやすくするため、ルート案だけでなく、構造についてもパターンを示してほしい。
- ・ 横浜北西線など、参考となる事例からの学びや知識を得てほしい。
- ・ 地下鉄7号線の延伸による中間駅の設置など、周辺地域のまちづくりの動向と連携してほしい。

○核都市広域幹線道路（埼玉新都心線～東北道付近）に関するその他の意見

- ・ 見沼田圃の魅力や利便性を高める開発と保全のバランスが取れた道路整備を期待する。
- ・ 本道路の整備により、東北方面～大宮間のアクセス性向上が期待でき、埼玉大学などの大学選択の際の後押しとなるのではないかと。
- ・ 本道路の整備により、利便性が向上すれば電車通勤から自動車通勤へと切り替える人が増え、電車の混雑緩和への寄与が期待できる。
- ・ 本道路の必要性や計画の根拠、東北道以東（東埼玉道路など）への延伸など、広域道路網としての位置づけが必要である。
- ・ 本道路を検討するにあたっては、見沼田圃の自然や景観保全のため、「見沼田圃の保全・活用・創造の基本方針」を念頭に置くことや自然環境への十分な配慮が必要である。また、見沼田圃の自然環境への影響について、検証した上で配慮してほしい。
- ・ 道路整備や見沼田圃の道の駅整備を検討するにあたり、「見沼田圃の保全・活用・創造の基本方針」がネックとなることを懸念している。
- ・ 周辺道路の整備やまちづくりの課題があるが、まずは本道路の整備を優先してほしい。
- ・ 地域の課題解決の観点では、周辺道路や生活道路の整備を優先すべきではないかと。
- ・ 構造について情報提供された際には、地上部を地域のために生かすような意見をしたい。
- ・ 本道路のルートについて、検討範囲の図に示される楕円の中心を通過するものと推測させてしまう。
- ・ 本道路の整備により、周辺道路のさらなる渋滞悪化が懸念されるため、整備後のシミュレーションや、交差点改良などの一般道の渋滞対策も併せて行ってほしい。
- ・ 本道路の整備に当たって早期に用地買収し、見沼田圃の地権者の負担を軽減してほしい。
- ・ 本道路の整備後の農地分断による、営農環境の悪化が心配だ。
- ・ なぜ本道路が、優先的に検討が始まったのか。経緯や理由を知りたい。
- ・ 「さいたま市 都市計画マスタープラン」では、本道路と東北道の接続部が浦和 IC から近い箇所計画されており、危険である。
- ・ 本道路の整備をこの地域で行う必要性、地域活性化や交通課題解消への効果などの根拠データが示されていないことや、見沼田圃の自然環境への影響を考慮すると、道路整備の必要性に疑問を感じる。
- ・ 遠方への移動や物流については、利便性の向上が期待できるが、側道の無い高速道路がさいたま見沼 IC から東北道へ延伸するのであれば、地域住民へのメリットは少ないのではないかと。
- ・ 有料道路が整備されても地域住民は使用する可能性は低く、工事費や土地の買収費用などの多

額の費用が将来への負担となることを懸念している。

- ・ 本道路が有料なのか無料なのかによって、渋滞緩和や事故低減など効果の出方が変わってくる。
- ・ 工事費の高騰などによる事業の遅れが懸念される。
- ・ 本道路が整備される時期や利用できる時期、道路構造が知りたい。
- ・ 本道路の名称について、「核都市」や「核」の文言が何を示すのか不明であり、わかりづらい。また、名称を変更するにしても、どのような道路がどこを通るのが分からないので、考えにくい。
- ・ 見沼田圃は地盤が悪いため、本道路に緊急輸送道路としての機能を期待する場合には、建設費がかさむのではと懸念している。

○見沼田圃の役割・活用

- ・ 本道路の整備をきっかけに、見沼田圃の耕作放棄地・荒地の活用や、グリーンインフラ・新たな産業の導入によって、地域の魅力向上につながることを期待する。
- ・ 本道路の計画を契機に、見沼田圃エリアについて地域住民で議論が活発にされることを期待する。
- ・ 歴史的に価値のある見沼田圃について、後継者不足も深刻な中、自然環境・景観を保全するためには、見沼田圃での農業体験や学習の場としての利用など、観光資源として活用する必要があるのではないか。
- ・ 見沼田圃の地権者として、見沼田圃という地域資産を活かし、観光やまちづくりに繋げてもらいたい。
- ・ 本道路の整備に併せて、見沼田圃のある景観を保全するため、農家が活躍できるような土地利用や、土地利用の自由度の向上について考える必要がある。
- ・ 本道路の整備に伴う見沼田圃の活用について、地域連携やまちづくり系の研究室・大学と連携するなど、周辺地域住民にメリットや楽しみのある活用が期待できる。
- ・ 現在は見沼田圃が調整池になっていることで、下流(川口市)が浸水しないようになっている。
- ・ 災害時に、見沼田圃を一時避難場所などの防災拠点として活用できるよう、浸水対策を行い、整備してほしい。

2. 核都市広域幹線道路（埼玉新都心線～東北道付近）の将来像

- ・ 本道路の整備だけでなく、LRT をはじめとした新交通システムや自動運転技術の導入などによる、地域の利便性向上に期待したい。
- ・ 高速道路の整備の検討にとどまらず、その道路の活用やあり方についても検討する場があると良いのではないかな。
- ・ 本道路の整備と地下鉄7号線の延伸を共に検討してほしい。
- ・ 災害時、道路の渋滞情報などを把握できるような、情報インフラの整備も必要である。
- ・ 本道路の「将来像」について、時代に合わせて自ずと新技術が導入された道路を整備することになるのではないかな。

3. その他

■核都市広域幹線道路（埼玉新都心線～東北道付近）以外のインフラ整備等への意見

- ・ 国道463号の新見沼大橋有料道路を無料化することで、渋滞の軽減が期待できる。
- ・ 埼玉らしさなどの文化・独自性を感じさせるまちづくりが必要である。
- ・ 既存道路において、片側車線が多いため、自動車・歩行者の事故への不安がある。
- ・ 高齢者として、周辺道路の整備（県道65号（さいたま幸手線）などの草刈り）や、自家用車を運転できなくなった際の移動手段を懸念している。
- ・ 岩槻IC～浦和IC地域の、オンデマンドバスの運行曜日が限られており、利便性が低い。
- ・ 病院周辺の公共駐車場の整備も行ってほしい。

以 上